



**写真等無断転載禁止**

## 下大和田谷津田（猿橋地区）の開発計画について ⑤ ～千葉県環境影響評価審査会～

NPO法人 ちば環境情報センター 副代表 小田 信治

令和5年度第3回千葉県環境影響評価審査会が開催され、傍聴しましたので報告します。

### 【千葉県環境影響評価審査会の概要】

日時：2023年8月25日（金）13:00～13:45

場所：千葉県総合保健医療センター5階会議室

出席者：審査委員14名（委員数18名）

千葉県環境保全課（事務局）

事業者関係（美樹観光（株）浅川会長他）

傍聴席：当会より 小西、田中、高橋、小田

議事：

- (1) 千葉県緑区下大和田町開発計画に係る環境影響評価方法書について（審議）
- (2) 千葉県緑区下大和田町開発計画に係る環境影響評価方法書について（答申）

審査会では、対象事業の変更（接続道路の具体化による土地利用計画の見直し）と第2回審査会における要確認事項に対する回答について事業者のアセス担当者から説明があり、それに対する委員の質疑が若干ありました。

事業者が退出した後、審査会答申案が審議、承認されて、岡本審査会長から環境保全部長に千葉市長宛の答申が提出されました。

千葉県はこの答申を基に市長意見を策定し、9月1日付で事業者へ送付しました。審査会の議事録と配布資料及び千葉市長意見は千葉県HPで公開されます。

（審査会）→千葉県環境影響評価審査会で検索

[https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/kg\\_hyoka\\_index.html](https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/kg_hyoka_index.html)

（市長意見）→千葉県環境影響評価審査案件で検索

<https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/assess-example-shimooowada.html>

### 【審査会答申の概要】

ポイントは以下の5点です。

- ①谷津田を保全する観点から事業計画を見直し、汚水排水、上水の供給、立地企業種、造成計画について具体化すること。
- ②谷津田については、環境省の「生物多様性保全上

重要な里地里山」等に指定されており、多様な生態系を有し、自然とのふれあい活動の場としても活用されている谷津田の保全区域や千葉市が谷津田の保全協定の締結を進める区域が含まれていることから、事業計画地から除外すること。

- ③環境影響評価項目として、以下を選定すること。  
水質（有害物質）、水象（河川流量等、地下水・湧水、水辺環境）、地形・地質（現況地形、注目すべき地形・地質等）、地盤沈下、土壌（表土）、地下水質、植物（植物相及び注目種：工事中）、景観（景観資源）、文化財（埋蔵文化財：工事中）、地域分断、温室効果ガス等（建設機械の稼働、工事用車両の走行）
- ④立地企業が未確定であるので、具体的な業種等を適切に設定した上で、環境影響の予測結果が過小にならないようにすること。
- ⑤地域住民や周辺住民、環境の保全を行う団体等の幅広い関係者に対し、丁寧な説明を行うこと。



下大和田谷津田での稲刈り(2023年9月2日)

### 【今後の課題】

審査会答申は住民意見書が反映された内容で、事業者には厳しいものとなりました。これも皆様が住民説明に参加し、意見書を書いて千葉市に提出するなど、環境アセスメントに積極的に関与された成果です。

谷津田の保全区域を事業計画地から除外することが答申に盛り込まれましたが、谷津田は田んぼだけで成り立つものではありません。周辺の樹林地や畑地等がセットになった環境です。

今後、事業者が準備書に向けて、十分に谷津田が保全された土地利用計画を策定することができるのか、その力量があるのか気がかりです。また、除外を指摘された区域は事業者の所有地でもあり、私たちの活動が担保されるのかも心配です。

谷津田の保全区域だけを事業計画地から除外するのではなく、樹林地等の周辺も含めて土地改変（土地造成）から除外していただき、他の改変区域で影響を受ける希少生物の移植地としたり、千葉市が推進している「大草谷津田いきものの里」のよう

な谷津田公園として位置づけられると谷津田を保全した開発のモデルになると考えます。事業者にとっても環境に関心の高い優良企業を誘致できるのではないのでしょうか。

今後、事業者とは谷津田の保全について意見交換を行っていくことが必要になると思います。引き続きご支援下さい。

準備書については、計画では来年の秋頃のようにですが、答申の内容を満足するにはさらに時間を要するかも知れません。

## 下大和田町開発計画に係る環境影響評価方法書への市民から出された意見 ①

千葉市は下大和田の開発の方法書に関して市民から広く意見を求め、その結果を公表しています。

通常こういう意見は、一生懸命な人（団体）がお手本になる文章を書いて皆さんにも出してほしいと促すので、おおむね同じような（コピペのような）意見が出される場合が多いのです。しかし、今回出

されたもの（55本）は、多様な立場の人が、自分の言葉で様々な意見を出しています。

貴重な意見が多数寄せられていますので、一部ですが数回に分けて紹介させていただきます。

（ちば環境情報センター事務局）

・私は、県立高校で生物を教えているものです。当地は、本県の里山を色濃く残す、貴重な場所です。もともと『生物多様性保全上重要な里地里山』にも指定されており、千葉市と土地保有者で保全協定を結び、保全団体との3者で活動協定を締結し、保全活動や環境学習を実施していた場所でもあります。従って、今回のホンドリツネの生息確認以前からも、様々な生物が生息する場所と知られており、中でも、絶滅危惧種のミナミメダカが多く生息していることで良く知られていました。

また、路線バスの走る幹線道路から近く、観察や採取にも至便な場所です。児童生徒の引率にも適しており、生態学を学ぶフィールドとしても貴重な場所です。計画書を拝見しましたが、このような開発が実施されれば、多くの在来の貴重種が絶滅あるいは激減することが自明です。後世の県民・市民に為にも、計画の認可の取り消しを決断願いたい次第です。

・私はこの田んぼが好きで通い始めてから今年で6年目となります。子どもたちの学びや体験の場を残してほしいと思っています。また、動物を調べるためにカメラを設置したところ、鹿や猪やサギなど多種多様な生き物が来ていたことがわかりました。川や水路の水もきれいで夏には蛍を見ることができます。このような自然は減ってきていて存在価値は上がってきています。

以上のことから、とにかく開発はとりやめてほしいと考えています。今の環境を残してほしいです。

・2004年から2015年まで稲毛に在住しておりました。現在はUターンで、小樽に戻り生活しております。谷津田では子供たちが大変お世話になりました。春の田おこしから秋の収穫祭まで、家族全員で参加させていただきました。

子どもたちの小学校でも実験として行っていました。授業の一環ですから比べものになりません。お茶碗一杯のご飯がどれだけ人の手がかかるか、それ以前に土と水です。土と水があればビルの屋上でもできます。それでいいのでしょうか？

自然の山や川、森やそこに住む生き物…、知らない子どもたちが多すぎます。その子たちの親でさえ、魚の切り身が泳いでいると思う世代。どうかこの貴重な里山の環境を残してください。雨が降って、土が無ければ大地にしみこみません。森が無ければ海へ流れ出てしまいます。森（里山）を失えば二度と戻りません。子どもたちには無くなったものを伝えるのではなく、このままの環境を残して伝えたいって欲しいです。

・1. 千葉市民の水源を守ってほしいです。私は、生まれも育ちも千葉市です。千葉市の水道水は利根川水系や印旛沼が水源になっています。印旛沼に注ぎ込む鹿島川がここ下大和田の湧水を水源にしています。きれいで安全な水の供給は、最重要課題の1つです。その水源を失くしたり汚染したりする可能性のある開発は避けてほしいです。

2. 動植物の希少種を守ってください。私は約18年前から、ちば環境情報センターの会員として下大和田で自然観察会やイベント、米づくり作業などに参加してきました。田んぼの中に湧水がぼこぼこと湧き出るような田んぼは、初めてでした。子の田んぼは冬期にも水を湛えています。そのおかげでニホンアカガエルは、寒い2月に産卵し命をつないでいます。無農薬で20年以上も米づくりを継続した結果、希少な生物が次々に見つかります。今回はキツネが発見され、注目されています。生物多様性を維持することは、人類の存続にとって極めて重要なことは言うまでもありません。

3. 水害など災害に対する危険性を考慮してください。現在は、台地に降った雨水がしみこみ長い時間をかけて湿地の湧水となって地表に出てきます。大量に雨が降っても台地に保水機能があり土砂崩れなどが防がれています。この台地を切り取り湿地を埋めてしまうと、この機能が損なわれて土砂が崩れたり流されたり地盤沈下が起こったり様々な災害が起こりやすくなると考えられます。大規模な造成はコストがかかりすぎるし、危険性も大き

くなると思います。

4. 美しい景観を守ってください。自然豊かなこの地域は多くの人々の癒しや慰めとなっています。私たちの活動には子どもたちが大勢参加し、自然の中で遊ぶ貴重な機会になっています。中には生物や自然環境に興味をもち、環境保全に関わる仕事を目指す子どももいます。この地域の良さを最大限に残して開発をしてください。

「方法書についての意見の概要 一覧表」は以下で見ることができます。

(令和5年度環境影響評価審査会 第2回 令和5年7月20日)

参考資料3 : [https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/documents/r5-2\\_sankou3.pdf](https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/documents/r5-2_sankou3.pdf)

## お米にまつわるミャンマーの話 第9回

### ～ミャンマー式お誕生日の祝い方～ 後編

千葉市若葉区 岩沢 久美子

寄付のアイデアを聞いて「これだ!」と思い、早速適当な寄付先を探してもらおうよう頼んだところ、30名のほどの孤児を抱える小規模のキリスト教系の孤児院を見つけてきてくれました。事前に連絡を取り、必要な物資を確認し、米、食用油、人数分の雨傘と文房具などの贈り物を用意しました。

そして、誕生日前の週末にケーキを持って、孤児院に向かいました。当日は例のごとくの大雨が降る中、1.5時間ほど車を走らせた郊外の静



ランチを食べる子供たち。  
娘はドライバーの膝に乗せられて

かな町の中にその孤児院はありました。孤児院は、キリスト教の牧師夫婦により運営されていました。ご夫婦にはご自身のお子さんがいるようですが、すでに成人しており、その後この孤児院を始めたそうです。そこには、30名ほどの就学前から18歳の子供たちが住んでいます。孤児院にいる子供たちの多

くは、地方の少数民族州の出身だそうです。これらの地域は国軍との紛争が続いており、親を紛争で亡くしたり、貧困のため実親が育てることができないために預けられた子供たちだそうです。

孤児院は水はけの悪い地に建っているのか、雨水がひざの高さまで浸水していました。娘はドライバーさんに抱えられて木造平屋の建物の中に入ると、中では牧師夫婦と子供たちに加えて、手伝いに来てくれたご近所家族や孤児院を成人して孤児院を巣立った若者等が待っていてくれました。

キリスト教式のお祈りと若者によるギター伴奏で賛美歌を歌った後、用意したプレゼントを配り、用意した(これまた巨大な)ケーキを食べました。その後は、30名分のランチが振る舞われ、子供達はこれまた驚くほど大量のご飯をぺろりと平らげていました。

娘にとっては不思議な体験だったようですが、後日、使用人家族と小さなケーキを囲んでお祝いをし、プレゼントももらえたので満足していたようです。娘はまだ幼かったので、もうあの日のことは覚えていないでしょうが、もう少し大きくなった時に、写真を見ながら今一度ミャンマーの思い出話と共に、誕生日に行った寄付の話もしたいと思っています。

## 新浜の話67 ～再整備事業第二期～

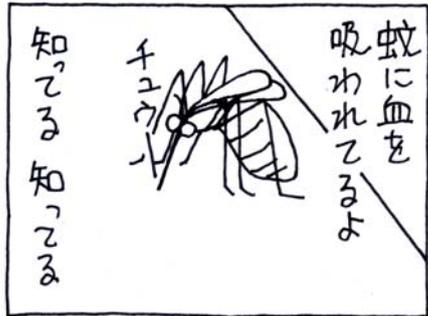
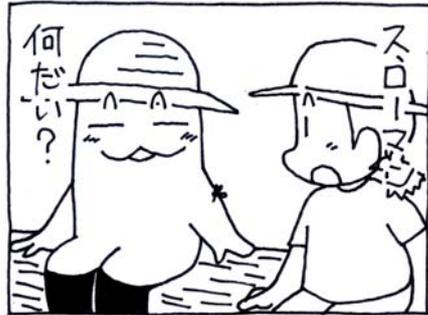
1995年度の第一期工事。大成功とは言えないまでも、そこそこの結果を出すことができ、1996年度の第二期を迎えました。この年は、大黒柱1号さんと呼んだ石川一樹さん、同2号さんと呼んだ佐藤達夫さんが市川市役所の非常勤職員としてふたりそろって働いてくれることになった初めての年。私は

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

もう有頂天。20年間、やりたくてたまらなくても人手がなくて着手できなかった環境改善や管理作業ができるのです。納得のゆくまで仕事を進める時間はまだとても取れず、彼らにはたいへん申し訳ないのですが、スタートできた仕事だけでもいくつもあります。

# スローマン 作: 柳 ありこ

(32)



実話です。感染症の元となる危険性があるのでマネしないでね。

二人の経験や興味、技術や能力、そしてやる気を生かせるように、できるかぎりのことをしたいと思っています。そうすれば、地球だって動くにちがいない!

第二期工事では、いよいよ保護区中心部の草原全体にわたって池が造成されることになりました。現在の浄化池三系列と四系列、トヨタ池の上池部分に連なる竹内池、そして長靴池です。長靴池は地表から2m近く、かつての干潟面近くまで掘り下げる形にしました。そして、表層1m近くを覆うシルト泥ではなく、その下、もともとの埋立てに用いられた砂泥質の土砂を掘り上げ、観察舎から真正面にあたる小島岬に運んで、できるかぎり沖まで押し出してもらおうことにしたのです。PNファンドの助成金で実施したような干潟の改善をはかることが目的でした。

これはたいへんな難工事。まず最初は工事用通路作り。大型ダンプがすれ違えることができる幅、重量にも耐えるようながっちりした通路が作られ、楽にターンができるような50m四方の広い折り返し点まで整備されて、11月のうちに通路完成。

長靴池の底から土砂を掘り上げる、と簡単に言っても、大型ユンボ(バックホウ)のアームが届かない。まず一段掘り下げて、地表から50cm以上も下がった位置に鉄板を敷いて重機を置き、そこから土砂を掘りました。水が垂れ落ちる土砂をダンプで小島岬の付け根に運び、少しでも水を抜くために石川さんが毎朝長靴で踏み込んで海へつながる水路をつけました。私は真夜中の水門操作に何度も通い、潮をいつもより60cm以上も下げた状態にしました。

いよいよ1996年12月27日。干潟へ土砂を押し出す当日です。8時半、ゴゴオッ、ゴオッと轟音が響き始めました。私が仕事をしている傷病鳥救護棟の治療室からは、真正面の小島岬にいる2台の大型ダンプが手に取るように見えます。オペレーターは大ベテランのお二人。大きな黄色いダンプは黒沢さん、正確無比の動きでバックアップ。二重にした太いワイヤでつながれたオレンジ色のダンプで突っ込むのは蕪木さん。見ていてはらはらするような大胆な動きで干潟に泥を押し出して行きます。キャタピラがぜんぶ泥に埋まるようなところまで前進。黒沢さんがじっくりとバックして、2台が呼吸を合わせて泥から脱出。太いワイヤが切れたことも2度3度とか。手に汗を握るような2時間半が過ぎ、ダンプが引き上げ始めた時には心底ほっとしました。

この時に押し出した砂泥による干潟は、足場がしっかりしていることもあり、後に学校の見学などによく利用されるようになりました。潮を何度かかぶって、地形もなだらかに落ちつき、よい感じの干潟の面積が少し増えました。

第二期工事で保護区の半分近くが池にかわり、4カ所の観察壁なども作られました。4月以降になる電気工事を待たないと、ポンプ揚水ができないのがつらいところ。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2023年10月号(第314号)の発送を10月6日(金)10時から千葉市民活動支援センター会議室(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

あなたも入会しませんか ..... キリトリセン .....

住所〒 \_\_\_\_\_

ふりがな 氏名 \_\_\_\_\_ Tel \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記:刈り残した稲が気になって今日も谷津田に行ってきました。タコノアシ群落が生えるたんぼで、たくさんのメダカが迎えてくれました。アジアイトトンボやオオイトトンボも舞っていました。こんなにも豊かなたんぼで米作りをさせてもらっていたのかと、改めて感謝したい気持ちです。今年も谷津田の農家さんの新米をお分けします。9月下旬になります。お問い合わせください。 mud-skipper ♀



## <小山町での活動>

### ☆8月期 小山町 YPP の活動はお休みでした 報告：赤シャツ親父

お盆期間(8/13~16日)を含む8月期は小山町の習わしに従い小山町YPPとしての活動はお休みとしました。田んぼ維持のための活動はお盆期間を外し、各メンバーが個人にて実施しました。7月初日より目立ち始めたイノシシ被害は畦に留まらず、一部の田んぼでは内部にも侵入、畑のイモ類、落花生を狙い撃ちされる等、拡大し繰り返されました。度重なる田んぼの修復作業とともに、近隣団体さんと連携した防鳥ネットによる進入路の遮断対策も展開されました。決定打は見いだせませんが、侵入させない工夫の積み重ねと地域の連携が重要だと感じています。

### ☆令和5年度期 小学校田んぼのかかし作り 2023年8月21日(月) 報告：たんぼぼ

大椎小学校とあすみ小学校の田んぼのかかしを作りました。両校からたくさんの親子と、3人の先生方が参加されました。8月に入り連日の真夏日が続いていたため、涼しい木陰を作業スペースに選びました。古着、布、藁、紐と限られた材料にそれぞれ工夫を加え、ポーズや表情も豊かな7体の案山子が完成しました。それぞれ個性の光るかかし達が稲を守ってくれると思います。

## 【谷津田・季節のたより】 2023年 8月

### <下大和田町>

8/6 オオシオカラトンボ多数見られる。花澤さん田んぼがイノシシに荒らされる。8/19 オモダカの花が満開に

### <小山町>

- ・8月千葉市の気温は全日真夏日、猛暑日が3日ありました。
- 8/7 コジユケイ忙しそう、マムシの赤ちゃん発見(たんぼぼ)、8/17 旺盛であったクマゼミ沈黙、チョウトンボ飛来(赤シャツ親父)、8/28 キイトンボがアブを補食(たんぼぼ)
- ・稲の出穂開花状況 (たんぼぼ)  
赤米、8/11 出穂、緑米、8/20、何れもたんぼぼ田んぼにて。

## 【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

## <下大和田谷津田>

### ・第295回 下大和田YPP「はえぬきの脱穀」

日時：2023年 9月16日(土) 9時45分~15時 ※雨天などの場合は翌17日(日)に実施

持ち物：長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費：ちば環境情報センター会員以外300円(小学生以上)、会員は無料(小学生以上)

### ・森と水辺の手入れ

日時：2023年 9月17日(日) 9時45分~12時 雨天中止

内容：自然観察路の整備や畦の補修作業などをします

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

### ・第285回 観察会とゴミ拾い「キノコをもっと知ろうーキノコの観察と分類ー秋」

日時：2023年10月 1日(日) 9時45分~15時 雨天決行

内容：専門家の先生をお迎えして、初心者にもわかりやすいように、秋のキノコ観察の基本を学びます。

講師：吹春俊光さん(千葉県立中央博物館)

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物

参加費：100円

### ・第296回 下大和田YPP「古代米の稲刈り」

日時：2023年10月14日(土) 9時45分~15時 ※雨天などの場合は翌15日(日)に実施

持ち物：長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費：ちば環境情報センター会員以外300円、会員は無料(小学生以上)

## <小山町谷津田>

### ▼第218回 小山町YPP「コシヒカリの稲刈り」(注)

日時：2023年9月2日(土) 10時00分~ ☆小雨決行

場所：りんどう広場

※ 田んぼの状況により早期の実施となりました。(注) 9月期は度々稲刈りを実施しますので、上記に限らず、参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail: tomizo\_i@nifty.com) までご連絡下さい

